message
学長室から

「大学改革実行プラン」と兵庫教育大学

文部科学省の「大学改革実行プラン」が6月に発表され、今年度後半から実施されます。その中で、国立大学はそれぞれのミッションと改革の方向性を明確化し、それに関するエビデンス（成果）を提示することが求められます。

前号のこの稿で取り上げた「教員養成修士レベル化」（8月に中央教育審議会答申として正式に提言された）と大学改革実行プランは本学に大きな変革を迫っています。これらの政策に対応し、本学のミッションと存在価値を今後とも堅持していくためには、これまでの実績と現有の資源をもとに二つの機能を創り、展開することが必要であると考えています。

一つは教員養成の高度化（修士レベル化）を、大学院の教員養成・研修に実績と資源を有する本学が中心となって、近辺の大学や県・市教育委員会と密接に連携・協働して遂行することです。かなり規模の大きいものになると予想されます。大学院における初任者研修の取り込みについて、すでに兵庫県教育委員会と協議を始めています。また、兵庫県内の大学、教育委員会と連携・協働するシステム構築の具体計画を、参加する公私立大学、教育委員会と協力して作成し、今年度から5年間の文科省「大学間連携GP」に採択されました。

教員養成の修士レベル化は教員全体の「底上げ」がねらいであって、すべての教員が対象であり、法制化されれば最終的にはすべての大学・大学院で実施されることとなります。そうなると本学は、単なる教員養成大学・大学院の一つにすぎなくなり、全国の学校のリーダーを育成するという本学のミッションは果たせなくなってしまいます。おそらく、現職教員が一般免許状取得のために大学院に入学する場合は、勤務を続けながら夜間や長期休業中に履修する形態が主になるでしょうから、本学の2年間フルタイムの指導法の蓄積や資源も生かせないことになります。

ミッションを果たし、蓄積・資源を生かすには、もう一つの機能を創り、全国展開することが必要です。これは、学校教育の各分野のより専門性の高い、より職位の高いリーダー（「スーパーリーダー」）を、全国各地の教育委員会等と強力に連携して養成することです。そのようなニーズをもつ教育委員会は少なくないと考えています。教員養成修士レベル化は学校教育の全分野・教科が対象となるでしょうが、スーパーリーダー養成は、本学の資源・能力と教育委員会のニーズのある分野・教科に限られるでしょう。たとえば、「上級校長」「特別支援教育スーパーバイザー」「カリキュラム・スーパーバイザー」などです。すでに実質的にそれを行っているプログラムもありますし、準備を始めているコースもあります。博士課程修了者も教職大学院等の教員になることから、ここに位置づけられます。

大学改革実行プランでは、大学間の連携と統廃合が本格的に検討されることになっています。本学が単体で存続するには、この二つの機能のような、教師教育において量的・質的に特段の役割を果たすことが条件になると考えています。

学長　加治佐哲也（かじさてつや）